

ドクターインタビュー

Doctor interview

ドクター
インタビュー

浮田クリニック

浮田 真吾 副院長

経歴

大津赤十字病院 産婦人科、新生児科、麻酔科
大阪府立母子保健総合医療センター 産科
京都大学医学部付属病院 産婦人科 助教
京都大学医学部付属病院 産婦人科 非常勤講師

資格

日本産婦人科学会専門医／日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（母体・胎児）／
麻酔科標榜医／日本抗加齢医学会専門医／母体保護法指定医／
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門インストラクター／ALSO JAPAN プロバイダー



浮田副院長

浮田クリニック

〒520-0242 滋賀県大津市本堅田 6-36-1 TEL：077-574-3751

安全な最新医療で女性の皆様を健康面からサポートするのはもちろん、医療の常識にとらわれることなく、患者さまお一人おひとりの不安に向き合い、患者様の立場を考えた優しい医療を心がけていきたいと願っております。

本日は、滋賀県大津市の産婦人科「浮田クリニック」で、副院長を勤められる浮田真吾先生にお話をお聞きます。

UTP角谷社長（以下 角谷）：ドクターを目指されたきっかけは何でしたでしょうか？

浮田副院長（以下 浮田）：子供の頃は、学校の先生や警察官になりたいと思っていました。どこかに、人の役に立ちたいという思いがあったのだと思います。その様な中で医師を目指すようになったのは、色々ありますがやはり院長である父の背中を見てです。院長は産婦人科ですが、院長は西洋医学だけではなく漢方の治療も取り入れ、地域に根付いた診療を行っています。

漢方は、診察の仕方も独特で、舌を診たり脈を診たりお腹を触ったりして診察します。採血等の検査データを見て行う診療より、患者さんとどんな時でも親身になって向き合っている姿を見て、人の役に立っている仕事だといつか憧れるようになり、自分も医者を目指すようになりました。

角谷：診療方針や目指す医療について教えてください。

浮田：産婦人科と言っても、産科・婦人科・不妊・女性のヘルスケアなど多くの分野があります。浮田クリニックでは全ての医師がこの産婦人科の幅広い分野全ての患者様に対応しますが、それぞれ得意な専門分野を持っておりますので、時には医師同士お互い意見を交わしながら治療に当たる事もあります。今まで、私は産科中心の総合周産期センターや大学病院で勤務しておりましたので、産科を専門に安全で安心な専門性の高い医療を提供したいと思っております。当院の目指す医療は、「西洋医学と東洋医学を融合させた女性に優しい専門性の高い医療の提供。」「24時間365日体制で地域の患者様をサポートする。」という事です。また、更にアンチエイジング医療を通して地域の女性が皆健康で美しくなるようサポートできたらと思っています。

角谷：365日24時間ですか？

浮田：そうです。産科は24時間365日での対応が必須です。当院の妊婦さんと赤ちゃんの安全と安心のためには、どんな時でも受け入れて対応できる様に準備しておく必要があります。困った患者さんがいたらまずは優しく手を差し伸べるよう心がけております。困った時には、まず当院に連絡頂ければいつでも安心してもらえるようなクリニックでありたいと思います。

角谷：プラセンタ療法はいつ頃からですか？

浮田：プラセンタは1年ほど前からはじめました。来院する方の中には、更年期やアンチエイジングのご相談も多くいらっしゃいます。その患者様に向けてプラセンタを導入しました。

角谷：プラセンタに興味を持ったきっかけは何でしょう。



浮田副院長とUTPスタッフ

浮田：一番のきっかけは、アンチエイジング学会で、プラセンタの話を聞いたことです。もちろん他にもいろいろなお話がありましたが、中でもプラセンタが最もアンチエイジング効果があると感じました。初めは母やスタッフにプラセンタ注射を使ってみました。凄く元気になって、大きな反響がありました。自分では初めは「ほんまか？」という思いがあり、知り合いの方にも協力してもらいモニターを募りました。皆さん注射を打つと元気になられます。腰の痛みを訴えている方にも試しましたが、今までロキソニンを1日4回毎日飲んでいた方が、飲まなくても大丈夫というお声を頂きました。試した方から、評判が広がり日に日にプラセンタを打ちたいという方が増えてきました。これだけ患者さんから感謝の言葉をもらえるプラセンタは素晴らしいと感じました。

角谷：プラセンタを使った症例を教えてください。

浮田：まず一番大きな効果を感じたのは、更年期障害の患者さんのhot flashの改善です。次に、気分障害、うつ等の精神疾患の改善です。また、めまいの症状が改善された患者さんもうらっしゃいました。皆さま共通して一番初めに効果が表れるのが、目覚めがよくなった。ぐっすりと寝れるようになった。と言われます。この良質な睡眠により症状が緩和されていって表情も明るくなります。期間は2-3週間くらいで症状の改善が見られる事が多いようです。しかし、長期休暇で間が空いてしまうとまた症状が出現する事もありますので、プラセンタは継続する事が重要です。

UTPスタッフ田中（以下 田中）：スタッフの皆さんも先生もプラセンタ製品をたくさん使って頂いていますね。

浮田：そうですね、化粧品とかも良く使っているようですね。いくら自分のクリニックで販売している商品でも、効果がなければ使わないでしょうね。女性が基礎化粧品変えるのは簡単じゃないようですが、最初数人が使って、一ヶ月位で見る見る肌艶が良くなっていくのを見て、他の人も自分も使ってみようと思うようです。看護師は立ち仕事だし神経も使う激務ですのでプラセンタのドリンクを飲んでいる人も多いです。

田中：ご契約頂いてすぐに、注射薬だけでなくサプリメントや化粧品もどんどんご注文頂いて大阪支店で話題になっていました。

浮田：若い看護師は、献血が出来なくなるということで注射に抵抗がある人もいるのかもしれませんが。そういう人はサプリを飲んでいます。

角谷：先生ご自身の体感はいかがですか？

浮田：時々注射していますが、注射した次の日は元気ですよ。

角谷：24時間診療されるということで、常にどなたかが待機していなくてはならないですし、小さな命を預かるお仕事ですから、神経も体力も使われることでしょう。ぜひプラセンタをご愛用下さい。先日、大阪支店のスタッフがパパになりまして、その時も立ち会って胎盤の写真を撮っていました。

田中：プラセンタに関係するお仕事ですから、わが子を元気に育ててくれた胎盤を見たかったのですね。UTPのブログにアップしていました。

角谷：お話は変わりますが、スタッフの方が凄く感じいいですね。

デリケートな精神状態の患者様が多いでしょうから、スタッフの存在も大きいと思いますが、どの様にスタッフ研修をされていますか？

浮田：当院はもともと感じの良い優しいスタッフばかりというのがありますが、定期的に接遇・マナーの講師を招いて研修もしております。外部の方からスタッフのことを褒められるのはとても嬉しいですね。みんな本当に患者さん思いの素晴らしい自慢のスタッフです。

角谷：最後に、今後新しくプラセンタ療法を始めようとする方に何か一言お願いします。

浮田：今は何でもエビデンスが求められる時代です。プラセンタはまだ未知の部分も多くエビデンスはまだ少ないですが、効果は確実にありますし実際に実感しています。少しでもエビデンスを蓄積し解明していければもっと臨床の現場でも使われることが多くなると思います。

編集後記

浮田クリニックは、堅田の駅を出ると目の前に見えます。インタビュー当日も新しい命が誕生したとお聞きました。本当にお忙しい中にも関わらず、予定時間をオーバーしての集合写真にも、にこやかに応じて頂いた、柔らかな雰囲気の方の浮田先生と皆様有難うございました。

スタッフの皆さんとの
集合写真には院長先生も
ご参加下さいました。